

報道関係各位

2004年9月9日

日本アメリカンフットボール協会

理事長 金沢好夫

安全対策委員長 小林宏司

## 日本アメリカンフットボール協会のアンチ・ドーピング活動について

### はじめ

日本アメリカンフットボール協会（以下日本協会）のアンチ・ドーピング活動は、第1回アメリカンフットボール・ワールドカップに帯同された黒澤尚ドクター（順天堂大学整形外科教授）が、2000年1月10日の第4回アメリカンフットボール医科学研究会でドーピングコントロールの重要性を提唱したところから始まりました。続いて川原貴ドクター（国立スポーツ科学センタースポーツ医学研究部長）がドーピングの歴史とアンチ・ドーピングの考え方を講演されて、具体的な活動がスタートしました。

### 経過

その後、各地区の安全対策セミナー等においてアンチ・ドーピングの教育啓蒙を推進し、昨年2003年5月の日本協会理事会において2004年度からのドーピング検査導入が承認され、本年5月の日本協会理事会にて2005年1月3日のライスボウル終了後のドーピング検査実施が決定されました。また、社会人アメリカンフットボール協会では2003年12月の社会人協会理事会において、2004年12月18日の社会人選手権 Japan-X Bowlにおいてドーピング検査を実施することを決定しております。

日本アメリカンフットボール協会では初めてのドーピング検査になりますので、これを機会にアンチ・ドーピング活動の重要性を再認識してもらうことと、支障なく検査が実施できるように、本年3月と7月に其々東京と大阪で計4回の講習会を実施して、規程や手順について、周知徹底をはかりました。

現在、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）への加盟を申請している段階です。

### 規則

ドーピングコントロールは世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の規程に則って実施します。この規程の中の罰則について簡単に説明しますと、ドーピング違反が確定すると、罰則は基本的にその違反した個人に科せられます。初めての違反の場合は原則2年間の資格剥奪となります。しかし、同一チームから複数の違反があった場合は、調査や追加検査を実施し、悪質な場合にはチームへの制裁を科す場合もあります。

#### 検査手順

今年度の場合は、試合終了後に両チームから2名ずつ計4名を検査します。

#### 日本協会の決意

今回のアテネオリンピックでは、ベンジョンソンで揺れたソウルオリンピック以来16年ぶりにドーピングが大きな話題になりました。選手の健康を損ない、スポーツの精神に反し、さらには社会的に悪影響を与えるドーピングは、無くなるどころか年々巧妙になり、スポーツの普及と発展を阻害しております。われわれ日本協会では今後本格的にアンチ・ドーピング活動を積極的に進める所存です。

皆様方には、お知らせが遅くなりまして申し訳ありませんでした。今後ともよろしくお  
願い申し上げます。

以上